

「天の御国」とは、どのような場所かご存知ですか？そこは良い真珠を捜している商人のようなもので、持ち物をすべて売り払ってでも手に入れる価値のある場所と聖書に書かれています。天の御国をほかの言葉で言い表すなら、主がそこにおられ、圧倒的な主権を持って治めてくださる場所といえます。そこは神様の義・平和・喜びがあります。この御国は主の祈りの中にも書かれており、この地上においても御国を来たせたまえと私たちは祈るようにイエス様から言われています。ではこの御国、神様のすばらしさとはどのようなものなのでしょうか。神様は私たちにそれをことばだけでなく人生の中で味わい知らせてくださいます。

今日は「主の臨在を慕い求める」ことをみんなで分かち合っています。私たちにあって神様が一緒におられること、神様のすばらしさを味わい知ることができることはとても大切なことです。神様はイスラエルの民を昼は雲の柱・夜は火の柱で守ってくださる方です。そして、そんな神様との関係をダビデは大切に、神様と共に歩む「ひとつのこと」を主に切に求めました。

私たちのうちにも主の臨在を目の当たりにする出来事が起こりました。1998年草加の教会のユースキャンプにて多くの方が神様の臨在・栄光をみ、神様の前で癒されていきました。こどもたちのうちに神様に対する悔い改めや献身表明が次々のなされていき、主の圧倒的な臨在を感じました。私たちの神様は目に見ることはできず、触れることもできませんが、主は生きておられる、神にとって不可能なことはひとつもない！というように神様の存在を少しも疑う余地なく味わい知ることができたのです。その主の臨在に私たちはただ御前にへりくだることしかできませんでした。その頃から草加の教会が主の臨在により変わり始めました。大勢の人が教会に来るようになり、賛美・メッセージ・祈りのときに神様が触れてくださり神を信じる人が起こされました。現在草加でセルリーダーやサブリーダーをしている人達はその頃教会に来た人たちです。また、神様のために献身する人もたくさん起こされ、神学校もできました。このようにことあるごとに神様の奇蹟をみることとなりました。

そのようななかで大切なこと、それは主に對する熱い祈りです。その祈りはタスプレイヤー「キツツキが木を何度も打ち続けるように、あきらめずに祈り続ける祈り」といい、私たちはいつも一つの祈りのために、また救いのために、すべて主が成し遂げてくださることを信じ、ひたすら打ち込んでいことを求められています。そこで問題に主が働いてくださり、私たちは主の栄光を仰ぎ見ることができるのです。また、預言的な祈りも与えられました。私たちのうちに問題が起こったとき、私たちはどのように祈ったらいいかわからなくなってしまうことがあります。しかしそのような中で私たちは、神様の思いがこの地上で成し遂げられるようにと、聖霊様に導かれて執り成して祈ることができます。そして、主のすばらしい御業のなかに子どもたちがたくさん教会に集まってきたことがあげられます。この頃、教会が楽しい、イエス様大好きという子どもがどんどん起こされ日曜日には3回子ども礼拝が行われました。そんな子どもたちのお母さんの多くがフィリピン国籍の方でした。フィリピンの方はすべての方ではありませんが集団で行動し、教会を転々される傾向にありました。ですので、あるとき大勢来ていた子どもたちがある日を境にいなくなるということがありました。しかし、そんななかで帰ってきた子どもたちがいます。今日一緒に来ている草加のメンバーの中にも元々は親に連れられて教会へ来たけれど、親たちが教会を離れても自分たちが意思を持って草加の教会に帰ってきたこと、それは先生方のキツツキの祈りと共に神様の御業がそうさせたことと証しています。当時7歳の子どもが力を合わせて電車に乗って教会へ通うのは大変だったと思いますが、このような行動をとれたのも主の臨在があったからこそです。そんな子どもたちが大きくなるまでには様々な障害、壁にぶち当たります。中学生の時期に何をすることも面倒くさいという思いも、またあらゆる誘惑も聖霊様によって守られ乗り越え、神様の働き人として今存在できている。このことから育ててくださるのは主であることが分かります、主の御業のすばらしさ。そこではいのちが満たされ、開放がなされ、癒され、神様の喜びが満ち溢れます。

使徒の働きにはイエス様の弟子たちが神様の臨在によって力を受けて前進したことが示されています。そのなかで私たちはどんなときも神様の深い愛に結びつくことが大切であることを学びます。私たちは主のために献身しますが、こうあるべきという理想と現実とのギャップに自分自身がうんざりして頭では分かっているのに神様にすべてを委ねることができないことがあります。神様のために力強く生きていくためにも大切なこと。それは第一番目にあなたが神様に愛されていることを受け入れるということです。自分を裁いていないでしょうか。エペソ3:17-19には、無条件の神様の愛が示されています。自分のはかりで人のことを裁いてはいけません。主の愛を神の子どもとして、自分を明け渡し、主の臨在を慕い求めましょう。神様の愛は大波のようなものです。また、太陽の光のようなものです。良い人にも悪い人にも平等に注がれます。ですから私たちも調子いいとき悪いときも主に明け渡し、委ねていきましょう。神様はいつも私たちと一緒におられます。今日来ている別のスタッフの中の証にもあるように、神様は私たちに将来と希望を与えてくださる方です。たとえつらいところ、マイナスに思うところを通ることがあっても、みことばで慰め、勇気づけてくださいます。

最後に、天の御国…それは全ての物売り払ってでも手に入れたい、それぐらい高価で尊いものです。この神様の臨在が私たちに導いて育ててくださるのです。これからも主の臨在を求めて、私たちが光をあらわす器となることを信じて深みに漕ぎ出していきましょう。また、この教会の天の御国が開かれ、生ける神の臨在が満ち溢れますように。なにより私たち一人ひとりが神様の臨在、その深みに漕ぎ出してその愛にもっと結びつけるように祈りたいです。私たちのうちから喜びがあふれ出て、いのちの泉が沸きあがりますように。それが家庭に流れ出て、職場に地域に流れ出ることを私たちは信じます。ですからこれからも共に主の御顔を仰ぎ見、主によって満たされ、生きて働かれる神とともに祈りをささげていきましょう。(要約者：平澤 瞳)